

モニタリング調査結果 概要版

1. 調査地点及び調査日

1.1. 調査地点

現況調査は、平成 23 年度調査実施地点 14 地点（①～⑭）のほか、新たに⑮～⑰の地点を追加し実施した。各調査地点と調査項目を表 1.1 に示した。

表 1.1 調査地点及び調査項目

No	調査地点	調査項目							
		植物	植生	哺乳	鳥	両爬	魚類	昆虫	底生
①	日比谷公園	●	千代田区全域	●	●	●	●	●	●
②	国会前庭	●		●	●	●		●	
③	日枝神社	●		●	●	●		●	
④	清水谷公園	●		●	●	●	●	●	●
⑤	ホテルニューオータニの屋上庭園、日本庭園及び斜面林	●		●	●	●		●	
⑥	外濠の緑道	●		●	●	●		●	
⑦	靖国神社	●		●	●	●		●	
⑧	錦華公園	●		●	●	●	●	●	●
⑨	神田児童公園	●		●	●	●		●	
⑩	神田川			●		●			●
⑪	日本橋川			●		●			●
⑫	東郷元帥記念公園	●		●	●	●		●	
⑬	外濠（新見附濠、牛込濠）	●		●	●	●	●	●	●
⑭	外濠（弁慶濠）	●		●	●	●	●	●	●
⑮	大手町 JA ビル	●		●	●	●		●	
⑯	和泉公園	●		●	●	●		●	
⑰	練成公園	●		●	●	●		●	

※以降は⑤：ホテルニューオータニ、⑬：新見附濠・牛込濠、⑭：弁慶濠と省略する。

- ①日比谷公園
- ②国会前庭
- ③日枝神社
- ④清水谷公園
- ⑤ホテルニューオータニ
- ⑥外濠の緑道
- ⑦靖国神社
- ⑧錦華公園
- ⑨神田児童公園
- ⑩神田川
- ⑪日本橋川
- ⑫東郷元帥記念公園
- ⑬新見附濠・牛込濠
- ⑭弁慶濠
- ⑮大手町 JA ビル
- ⑯和泉公園
- ⑰練成公園



図 1.1 調査位置図

1.2. 調査日程

表 1.2 に示す日程で調査を実施した。

表 1.2 (1) 調査実施日程

調査項目	調査方法	調査時期	調査日	調査時間帯	天候
植物相	任意観察	春季	2022年5月10日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年5月11日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年5月12日	午前	曇り
			2022年5月20日	午後	曇り
		夏季	2022年7月26日	午前	雨
			2022年7月27日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年7月28日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年7月29日	午後	晴れ
	任意観察 植生調査	秋季	2022年10月3日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年10月4日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年10月5日	AM8時～PM17時	雨
			2022年10月11日	午前	曇り
哺乳・ 両生・爬虫類	任意観察	春季	2022年4月15日	午後	雨
	任意観察 自動撮影カメラ設置 夜間コウモリ調査	秋季	2022年10月3日	AM8時～PM17時 PM17時～PM20時	曇り
			2022年10月4日	AM8時～PM17時 PM17時～PM20時	曇り
鳥類	任意観察	春季	2022年5月17日	AM7時～PM13時	曇りのち雨
			2022年5月18日	AM7時～PM15時	晴れ
			2022年5月30日	AM7時～PM13時	晴れ
		初夏	2022年6月13日	AM8時～PM14時	晴れ
			2022年6月14日	AM7時～AM11時	曇り
			2022年6月20日	AM7時～PM13時	曇り
			2022年6月21日	AM7時～PM13時	曇り
			2022年6月22日	AM7時～PM14時	曇り
		秋季	2022年10月3日	AM7時～PM14時	曇り
			2022年10月4日	AM7時～PM13時	曇り
			2022年10月5日	AM7時～PM14時	雨
		冬季	2023年1月18日	AM7時～PM13時	曇り
			2023年1月19日	AM7時～PM15時	晴れ
			2023年1月20日	AM7時～PM14時	晴れ

表 1.2(2) 調査実施日程

調査項目	調査方法	調査時期	調査日	調査時間帯	天候
昆虫類	任意観察	春季	2022年5月10日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年5月11日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年5月12日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年5月20日	午後	晴れ
	任意観察 ベイトトラップ	夏季	2022年7月26日	PM15時～PM18時	雨
			2022年7月27日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年7月28日	AM8時～PM17時	晴れ
			2022年7月29日	AM8時～PM17時	晴れ
魚類	任意捕獲	夏季	2022年8月17日	AM8時～PM17時	雨時々曇り
			2022年8月18日	AM8時～PM17時	雨時々曇り
			2022年8月19日	AM8時～PM17時	晴れ
		秋季	2022年10月3日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年10月4日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年10月5日	AM8時～PM17時	雨
底生動物	任意捕獲	夏季	2022年8月17日	AM8時～PM17時	雨時々曇り
			2022年8月18日	AM8時～PM17時	雨時々曇り
			2022年8月19日	AM8時～PM17時	晴れ
		秋季	2022年10月3日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年10月4日	AM8時～PM17時	曇り
			2022年10月5日	AM8時～PM17時	雨

1.3. 過年度との比較

a. 植物

- ・外濠の緑道沿いの斜面には定期的な下草刈りの実施により良好な草地環境が維持されています。
- ・ホテルニューオータニの斜面、清水谷公園、日枝神社などには古くからの地形と樹林が安定的に維持されており、希少な植物の生育も見られます。
- ・練成公園など市街地内の小規模な公園では他の緑地と較べて植物の種類が少ない状況です。
- ・国会前庭の池において水草の重要種が新たに確認されました。植栽でない場合は、皇居から鳥散布により運ばれ、新たに生育したものと考えられます。
- ・ノハカタカラクサ、シマトネリコなど在来植物や生態系への影響が懸念される外来種が増加・新たに出現しています。鉢植えの植物が公園内に放棄されている状況も見られます。

植物において、2011年度調査結果との比較を行った。

外濠の緑道沿いの土手斜面は定期的な下草刈りの実施により継続して草地環境が維持され、東京都内では希少なワレモコウ、ツリガネニンジン、ノアザミなどが過年度と同様生育していた。

弁慶濠に面したホテルニューオータニの斜面は今年度新たにギンランやアスカイノデが確認されるなど、里山の雑木林の環境が残された貴重な場所と言える。また、清水谷公園や日枝神社なども引き続き千代田区内では貴重な自然度の高い樹林や草地が安定的に維持されていた。

新たに調査を実施した大手町 JA ビルの屋上緑地、和泉公園、練成公園は新規に造成された植栽地であり、確認種も植栽種が中心で、生育種数は少なかった。

皇居の内濠や外濠ではツツイトモやホザキノフサモ、エビモなどの水草の生育が知られており、今年度の調査においても弁慶濠でホザキノフサモが確認された。しかし、過年度の調査では確認されていなかった国会前庭の池において、ツツイトモやホザキノフサモが新たに確認された。植栽であるかどうか未確認であるが、植栽でない場合は、皇居の濠から水鳥による鳥散布により運ばれ、新たに生育したものと考えられる。また、国会前庭では新たに花壇でフタバムグラが確認された。確認された場所が花壇であるため、移入の可能性が高い。

その他、外来種も多く確認された。ノハカタカラクサは外濠の緑道や日比谷公園、日枝神社、靖国神社、新見附濠・牛込濠で確認され、いずれの調査地区でも林床にマット状に広がっており、在来種を被圧してしまう可能性が考えられる。また、シマトネリコは今年度新たに確認された外来種であり、近年植栽として多く利用されている。現地調査では実生も確認したことから、周辺の植栽木からの種子散布によって広がっていると考えられる。さらに、カラクサナズナ、キンゴジカ、マツバウンラン、ノウゼンカズラ、フシネキンエノコロなど新たな外来種も新たに確認された。錦華公園では緑地内に鉢植え植物が放棄されている状況も確認された。

		
外濠の緑道	ホテルニューオータニの斜面	日枝神社
		
清水谷公園	ホザキノフサモ (国会前庭)	ノハカタカラクサ (靖国神社)

b. 哺乳・両生・爬虫類

- ・2022年度調査ではタヌキが確認されていませんが、緑地に大きな変化がないことや、東京都の都市圏へ分布拡大傾向にあることから、今回確認はなかったものの現在も調査地区内を利用している可能性があります。
- ・アズマヒキガエルの調査地区内での繁殖地数は2011年度調査から減少しましたが、日比谷公園では2011年度調査同様に幼生が確認されており、生息状況は安定しています。
- ・草地在維持されている国会前庭の斜面地や外濠の緑道、安定した樹林を形成している日枝神社では重要種のヒガシニホントカゲの生息環境が良好に維持されています。
- ・ホテルニューオータニの斜面林は落ち葉の堆積した湿った土壌となっており、重要種のヒバカリの生息に適した環境が維持されています。

哺乳・両生・爬虫類において、2011年度調査結果との比較を行った。

哺乳類ではコウモリ類（2011年度調査の「コウモリ目の一種」、2022年調査の「ヒナコウモリ科」）は広範囲で確認されており、2011年度調査と2022年度調査で大きな変化は見られない安定した生息状況となっている。

一方、2022年度調査ではタヌキが確認されていない。しかし、緑地に大きな変化がないことや、東京都の都市圏へ分布拡大傾向にあることから、2022年度調査では確認はなかったものの調査地区内を現在も利用している可能性は考えられる。

両生類では2011年度調査、2022年度調査ともにアズマヒキガエルのみと変化はないものの、確認地点は減少した。特に2011年度調査では日比谷公園、清水谷公園、錦華公園、弁慶濠で幼生が確認されているが、2022年度調査では幼生の確認は日比谷公園のみと繁殖地が減少した。日比谷公園では幼生が多数確認されており、生息状況は安定している。

なお、東京都内のアズマヒキガエルは西日本から移入されたニホンヒキガエルとの交雑が問題

視されており、日比谷公園のアズマヒキガエルも交雑が進行しているおそれもある。

爬虫類ではヒガシニホントカゲ（2011年度調査は「ニホントカゲ」と表記）は2011年度調査、2022年度調査ともに確認された。2022年度調査は外濠の緑道や国会前庭の斜面地といった草地環境や、安定した樹林を形成している日枝神社で確認されており、ヒガシニホントカゲにとって良好な環境が維持されている。

一方、大きな変化では2022年度調査で新たに確認されたアオダイショウ、ヒバカリが挙げられる。アオダイショウはネズミ等の小型哺乳類、シジュウカラ等の小型鳥類、トカゲ類を捕食することから、確認された日比谷公園、日枝神社、ホテルニューオータニ、靖国神社周辺ではこれら餌資源も安定して生息しているものと考えられる。また、ヒバカリは小魚やオタマジャクシ、ミミズ類を捕食し、湿った環境を好む種で、小さい面積でも餌資源が生息できる環境が残っていると急激な減少は避けられるとされている。確認されたホテルニューオータニの斜面林は落ち葉の堆積した湿った土壌であり、本種の好む生息環境（餌資源であるミミズの生息環境を含む）となっている。

（参考文献）

環境省自然環境局生物多様性センター. 2021. 令和3年度(2021年度)中大型哺乳類分布調査調査報告書タヌキ・キツネ・アナグマ

東京都環境局自然環境部計画課. 2013. レッドデータブック東京2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版

c. 鳥類

- 2022年度調査の確認種数は50種、2011年度調査の確認種数は52種であり、確認された種数に大きな差はありませんでした。
- 2022年度調査ではヒドリガモ、オナガガモ、ノスリ、ハシボソガラス、イワツバメ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、シロハラ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、ビンズイの12種が確認されませんでした。このうちエゾムシクイ、センダイムシクイ、コサメビタキは渡りの時期の短期間しか確認されないため今回の調査で確認できなかった可能性があります。また、イワツバメは近年個体数が減少傾向にあることが明らかになっています。
- 2022年度調査ではヨシガモ、ホシハジロ、チュウサギ、オオバン、イソシギ、ハイタカ、オオタカ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリ、エゾビタキの10種が新たに確認されました。このうちオオタカ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリは近年都市部でも確認されるようになったことが影響したと考えられます。

鳥類において、2011年度調査結果との比較を行った。

2011年度調査の確認種数より大きく確認種数が減少していたのは、国会前庭（2011年度25種、2022年度18種）、日枝神社（2011年度：16種、2022年度：9種）、清水谷公園（2011年度：19種、2022年度：10種）、弁慶濠（2011年度：30種、2022年度：15種）で、逆に大きく確認種数が増加していたのは、神田川（2011年度：17種、2022年度：28種）であった。

確認種数が大きく減少した調査地点では、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ等の冬鳥が確認されなかったことが共通していた。また、水辺のある弁慶濠では上記の冬鳥のほかにマガモ、コガ

モ、オナガガモ等の冬鳥のカモ類が確認されなかったことが確認種数に影響していた。冬鳥の渡来状況は、年や地域により大きく変わるので、2011 年度に比べ 2022 年度は冬鳥の渡来数が少なかった可能性が考えられた。

確認種数が大きく増加した神田川では、2011 年度調査では確認されなかったマガモ、ダイサギ、オオバン等の水辺の鳥が多く確認された。特にダイサギ、コサギ、イソヒヨドリは近年都市部でも分布が拡大していることが影響した可能性がある。

新たに調査を実施した和泉公園、練成公園、大手町 JA ビルの屋上緑地では、小規模な緑地でも確認される、シジュウカラ、ヒヨドリ、スズメ等の身近な鳥類が確認された。

(参考文献)

植田睦之・佐藤望. 2021. 東京都鳥類繁殖分布調査 2016-2021, バードリサーチ, 府中市. <https://www.bird-atlas.jp/news/bbstokyo2016-21.pdf>

d. 昆虫類

- ・外濠の緑道沿いの斜面では、草刈りにより良好な草地環境が維持されていることからショウリョウバッタモドキやヒメウラナミジャノメが前回同様確認されました。
- ・ホテルニューオータニと弁慶濠にまたがる緑地や靖国神社、日枝神社、外濠緑道で樹林が維持されてきたことにより、大径木を利用する種や移動性の低い樹林性の種が見られます。
- ・市街地の小規模な緑地では他の緑地と比べて昆虫類が少なく、中でも神田児童公園や大手町 JA ビルの屋上緑地のように下層植生が乏しい場所では特に少ない状況でした。
- ・近年に分布拡大や侵入が確認された外来種のカメムシ類を新たに確認しました。また、特定外来生物のアカボシゴマダラの確認地点数が増加し、外来種である本種がより普通になっていることが窺われます。それ以外にも、近年の昆虫類の分布状況の変化を反映した結果となりました。

昆虫類において、2011 年度調査結果との比較を行った。

市街化された環境でも生息できる種は過年度同様に確認され、確認箇所数も多かった。例えばカネタタキやアブラゼミ、ミンミンゼミ、アオスジアゲハ、ハリブトシリアゲアリといった種は街路樹も利用し、市街地でもふつうに見られる昆虫類である。一方、調査地の環境を反映して特徴的に見られた種もいた。例えば、外濠の緑道沿いの土手斜面では樹林周辺の草丈の低い草地を好むヒメウラナミジャノメが多数確認されたほか、チガヤを主体とした草地ではショウリョウバッタモドキが確認された。これらの種は過年度と同様に確認され、定期的な下草刈りの実施により草地環境が維持されていることを反映した結果と言える。また、弁慶濠とホテルニューオータニにまたがる斜面林は暗いまとまった樹林として維持されてきたことを反映し、移動性が低く薄暗い林床に生息するトゲナナフシが過年度と同様に確認された。日枝神社、外濠の緑道、靖国神社、弁慶濠には大径木の樹林が生育しており、樹木の腐朽部を利用する、ウバタマムシやタマムシ、クズハキリバチといった昆虫類が確認され、そのうちクズハキリバチは過年度と同様に確認されている。

新たに調査を実施した和泉公園、練成公園、大手町 JA ビルの屋上緑地といった市街地の小規模な緑地は神田児童公園のように下層植生が乏しい公園と同様に昆虫類が少なく、確認種も植栽さ

れた植物を利用する飛翔能力のある種が中心であった。

その他、外来種も多く確認された。チュウゴクチャバネハゴロモやクスベニヒラタカスミカメ、キマダラカメムシといった近年に分布拡大や侵入が確認された外来種のカメムシ類を新たに確認したほか、近年の分布拡大を反映した種としてホソミイトトンボやクマゼミが挙げられる。ホソミイトトンボは関東地方南部では稀な種であったが、近年は身近に見られる種となっている。クマゼミは過年度、1か所で1個体確認されたのみであったが、今回は3か所で複数個体がそれぞれ確認されている。

e. 魚類・底生動物

<魚類>

- ・2022年度調査ではゲンゴロウブナ、ギンブナ、ドジョウ、ナマズ、オオクチバス（ブラックバス）、ボラ、マルタ、スミウキゴリが確認されていませんが、2011年度に確認された日本橋川や弁慶濠などの環境に大きな変化がみられないことから、今回確認はなかったものの現在も生息しているものと考えられます。
- ・モツゴ、メダカ類、トウヨシノボリ類は日比谷公園、清水谷公園の池や外濠などにおいて、安定した生息状況が維持されています。一方で、外来種のブルーギルは日本橋川でも確認され、確認地点が増えていることから、今後の動向に注意が必要です。

<底生動物>

- ・2022年度調査ではミズクラゲ、コウロエンカワヒバリガイ、ゴカイ類、フジツボ類といった主に海域や汽水域などに生息する種が確認されていませんが、2011年度に確認された神田川や日本橋川の環境に大きな変化がみられないことから、今回確認はなかったものの現在も生息しているものと考えられます。
- ・2022年度調査の各地点別の種数は、2011年度調査に比較して、日比谷公園、日本橋川、新見附濠・牛込濠、弁慶濠で減少しました。清水谷公園、錦華公園、神田川、日本橋川は概ね同等の結果でしたが、外来種であるヌマエビ科のNeocaridina属やトガリアメンボが新に確認されており、Neocaridina属は確認地点が増えていることから、今後の動向に注意が必要です。

魚類・底生動物において、2011年度調査結果との比較を行った。

魚類では、2022年度調査ではゲンゴロウブナ、ギンブナ、ドジョウ、ナマズ、オオクチバス（ブラックバス）、ボラ、マルタ、スミウキゴリが確認されなかったが、2011年度の確認地点である日本橋川や弁慶濠などの環境に大きな変化がみられないことから、今回確認はなかったものの現在も生息しているものと考えられる。一方で、2022年度調査では、新たに汽水域等に生息するシモフリシマハゼが神田川と日本橋川、アベハゼが神田川で確認されたほか、外来種であるタイリクバラタナゴ、カダヤシが日本橋川、ソウギョが清水谷公園で確認された。

モツゴ、メダカ類（2011年度調査の「メダカ」、2022年度調査の「ミナミメダカ」）、チチブ類（2011年度調査の「チチブ属」、2022年度調査の「ヌマチチブ」）、トウヨシノボリ類（2011年度調査の「トウヨシノボリ（型不明）」、2022年度調査の「トウヨシノボリ類」）は日比谷公園や清水谷公園、外濠等において、生息数も多く安定した状況となっている。また、外来種のブルーギル

は2011年度調査では新見附濠・牛込濠、弁慶濠のみ確認されているが、2022年度調査では日本橋川でも確認され、確認地点が増えている。特に日本橋川ではタイリクバラタナゴやカダヤシも確認されており、今後の動向に注意が必要である。

底生動物では、2022年度調査ではミズクラゲ、コウロエンカワヒバリガイ、ゴカイ類、フジツボ類といった主に海域や汽水域などに生息する種が確認されなかったが、2011年度の確認地点である神田川や日本橋川などの環境に大きな変化がみられないことから、今回確認はなかったものの生息しているものと考えられる。

2022年度調査の各地点別の種数では、2011年度調査に比較して、日比谷公園、日本橋川、新見附濠・牛込濠、弁慶濠で減少した。清水谷公園、錦華公園、神田川では概ね同等の結果であったが、外来種であるヌマエビ科の *Neocaridina* 属やトガリアメンボが新に確認されており、特に *Neocaridina* 属は2011年度調査では日本橋川のみでの確認であったが、2022年度調査では日比谷公園、清水谷公園、神田川でも確認され、確認地点が増えており、今後の動向に注意が必要である。



f. 重要種

- ・外濠の緑道では定期的な草刈りなどにより生育環境が引き続き維持されており、ヒトツバハギやヒメウラナミジャノメなどが前回同様確認されました。
- ・都市公園内の規模の大きな水域や、樹林が接する外濠などのお濠は、オオバン、チュウサギ、イソシギといった都市においては希少な水鳥の生息を支える重要な環境となっています。
- ・公園などの緑地に担保されているまとまった止水環境はオオアメンボが新たに確認されるなど水生昆虫の生息の場として貴重な存在となっています。
- ・日比谷公園は大きな緑地で、草地や樹林、水域と様々な環境を有し、また皇居近くに位置していることから、皇居から飛来していると考えられるコサナエが新たに確認されるなど、過年度から引き続き多くの重要種が生息しています。一方で、規模の小さい公園などでは重要種は過年度から変わらずほとんど確認されていません。

2011年度調査で確認された重要種と今年度調査で確認された重要種の一覧表を表 1.3 に示す。植物では、ホザキノフサモ、ヒトツバハギが前回調査以降、2020年度に東京都レッドリストの見直しが行われたことにより新たにレッドリストに追加された。ホザキノフサモは前回調査と同じ弁慶濠の他、新たに国会前庭でも確認された。ヒトツバハギは前回調査でも同じ外濠の緑道で確認されており、生育環境が引き続き定期的な草刈りなどによって維持されていると考えられる。また、ウマノスズクサ、キケマン、カザグルマも前回調査と同様に同じ地区確認されており、草刈りなどの管理により生育環境が維持されていると考えられる。そのほか、コヒロハハナヤスリ、マツバラ、アスカイノデのシダ植物、ツツイトモ、ギンランは前回確認されておらず、今年度調査で初めて確認された。なお、今年度確認できなかった重要種はなかった。

爬虫類・両生類では、アオダイショウ、ヒバカリが今年度調査で初めて確認されている。そのほか、ニホンヤモリやヒガシニホントカゲについては、前回調査と確認地点が多少異なるものの、都市化により生育環境が減少していく中で、公園や神社などに残る樹林や草地環境で生息していると考えられる。

鳥類では、ホシハジロ、ゴイサギ、ウミネコ、オナガが前回調査以降、新たにレッドリストに追加された種であり、ゴイサギ、ウミネコは前回と同じ地区でも確認された。オナガはさらに別の地区でも多く確認され、都市公園の小規模な緑地を行き来しながら利用していると考えられる。また、ヨシガモやオオバン、ハイタカ、オオタカ、チュウサギ、イソシギ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリは前回確認されておらず、今年度調査で初めて確認された。水鳥類は前回調査と同様に多くの種類が確認されており、都市公園内の規模の大きな水域や、樹林が隣接する外濠などのお濠は都市において水鳥類の生息を支える重要な環境と考えられる。一方、ノスリやコサメビタキは今年度調査で確認されなかった。ノスリは皇居周辺を飛翔している個体を偶然したものと考えられる。

昆虫類ではヒメウラナミジャノメ、クズハキリバチが前回以降、新たにレッドリストに追加された種であった。両種とも前回と同じ地区でも確認されており、ヒメウラナミジャノメは草刈りなどにより、クズハキリバチは樹林環境の維持により生息環境が維持されているものと考えられる。また、ヒカゲチョウ、コサナエやオオアメンボ、ウバタマムシ、タマムシは前回確認されておらず、今年度調査で初めて確認された。オオアメンボは樹陰のある止水域に生息する種であり、

清水谷公園、靖国神社といった緑地に担保されているまとまった止水環境（池）は、本種の生息を支える貴重な存在と考えられる。また、ウバタムシ、タムシについても外濠の緑道をはじめとした大径木が多く生育する樹林環境が、これらの種の生息を支える基盤となっていると言える。一方、ホソミオツネトンボやクマスズムシなどは今年度調査では確認されなかった。過年度のみ日比谷公園で確認されているホソミオツネトンボは皇居から飛来した個体を偶然確認したものと考えられ、今年度確認されたコサナエも同様である可能性がある。

魚類調査ではトウヨシノボリ類、ウキゴリが前回以降、新たにレッドリストに追加された種であった。トウヨシノボリ類、ウキゴリは前回と同じ地区でも確認された。ミナミメダカは前回と同様、公園内の比較的規模の大きい水域で確認された。また、ヌマチチブ、アベハゼは今年度調査で初めて確認された。一方、マルタやナマズは今年度調査では確認されなかった。

底生動物では、前回同様テナガエビやスジエビ、サワガニが確認された。そのほかオオタニシ、モクズガニ、ハグロトンボ、ババアメンボ、ハネナシアメンボは今年度調査で確認されなかった。



表 1.3(1) 重要種比較一覧

No.	項目	種名	調査地点														合計	備考				
			①日比谷公園	②国会前庭	③日枝神社	④清水谷公園	⑤ニューオータニ	⑥外濠の緑道	⑦靖国神社	⑧錦華公園	⑨神田児童公園	⑩神田川	⑪日本橋川	⑫東郷元帥記念公園	⑬新見附濠・牛込濠	⑭弁慶濠			⑮大手町J Aビル	⑯和泉公園	⑰練成公園	
1	植物相	コヒロハハナヤスリ							新												1(+1)	
2		マツバラシ	新																		1(+1)	
3		アスカイノデ			新		新		新												3(+3)	
4		ウマノズクサ						継													1	
5		ツツイトモ		新																	1(+1)	
6		ギンラン					新														1(+1)	
7		ノカンゾウ	未					継													1(-1)	注2
8		マコモ												継							1	注1
9		キケマン	継																		1	
10		カザグルマ												継							1	
11		ホザキノフサモ		新											継						2(+1)	注2
12		ヒトツバハギ						継													1	注2
13		フタバムグラ		新																	1	
14		カワヂシャ	継																		1	
	合計	14種(+6)	3	3(+3)	1(+1)	0	2(+2)	3	2(+2)	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	-	-
1	哺乳類	アズマヒキガエル	継		未	未	未	未	未					未	未						1(-9)	
2	両生類	クサガメ	未											新							1	注1
3	爬虫類	ニホンスッポン	継												新						2(+1)	
4		ニホンヤモリ	継	継	未	継		継	継	新			未	未			新				7(-1)	
5		ヒガンニホントカゲ		継	新			継		新				未							3	
6		アオダイショウ	新		新			新		新											4(+4)	
7		ヒバカリ						新													1(+1)	
	合計	7種(+2)	4	2	2	1(-1)	2(+1)	2(-1)	2	0(-1)	1(+1)	0	0	0(-2)	1(-2)	1	0	1(+1)	0	0	-	-

※「未」：2011年度に確認されたが、今年度調査では確認されていない種

「新」：2011年度に確認されなかったが、今年度調査で新たに確認された種

「継」：2011年度、今年度調査両方で確認された種

※グレーの網掛けは調査未実施地点

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、2011年度との差を（）で示した。

※「注1」：2011年度は重要種に該当するが、今年度は重要種に該当しない種

「注2」：2011年度は重要種に該当しないが、今年度は重要種に該当する種

※2011年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※2022年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

表 1.3(2) 重要種比較一覧

No.	項目	種名	調査地点														合計	備考				
			① 日比谷公園	② 国会前庭	③ 日枝神社	④ 清水谷公園	⑤ ホテルニューオータニ	⑥ 外濠の緑道	⑦ 靖国神社	⑧ 錦華公園	⑨ 神田児童公園	⑩ 神田川	⑪ 日本橋川	⑫ 東郷元帥記念公園	⑬ 牛込濠	⑭ 新見附濠			⑮ 弁慶濠	⑯ 大手町J Aビル	⑰ 和泉公園	⑱ 練成公園
1	鳥類	ヨシガモ				新									新					2(+2)		
2		ホシハジロ									新			新							2(+2)	注2
3		カイツブリ												継							1	
4		ゴイサギ									未			継	未						1(-2)	注2
5		ダイサギ	新				未				新	未		継	継						4	
6		チュウサギ	新																		1(+1)	
7		コサギ				新					新	継		継	未						4(+1)	
8		オオバン									新	新		新							3(+3)	
9		ヒメアマツバメ	未						未							新					1(-1)	
10		イソシギ									新	新									2(+2)	
11		ウミネコ									継										1	注2
12		ハイタカ	新						新												2(+2)	
13		オオタカ	新																		1(+1)	
14		ノスリ		未				未													0(-2)	
15		カワセミ	未	未		未									新	継					2(-2)	
16		チョウゲンボウ				新															1(+1)	
17		モズ	未	継				未										未			1(-3)	
18		オナガ	継	未				継	新		新		新					新			6(+3)	注2
19		ヤマガラ	継	未	未	未	継		継	継											4(-3)	
20		インビヨドリ									新										1(+1)	
21		コサメビタキ	未	未					未												0(-3)	
	合計	19種(+7)	6	1(-5)	0(-1)	2	2(+1)	1(-3)	3	1	0	8(+7)	3	1(+1)	7(+3)	4(-1)	0	1(+1)	0	-	-	
1	昆虫類	ホソミオツネントンボ	未																	0(-1)		
2		コサナエ	新																		1(+1)	
3		チョウトンボ	未					新									新				2(+1)	
4		クマズムシ															未				0(-1)	注1
5		ショウリョウバッタモドキ						継													1	注1
6		リンゴコカスミカメ	未				未														0(-2)	
7		オオアメンボ				新			新												2(+2)	
8		ヒカゲチョウ	継																		1	注2
9		ヒメウラナミジャノメ					新	継									継				3(+1)	注2
10		オオミズアオ本土亜種							新												1(+1)	
11		ウバタマムシ							新	新											1(+1)	
12		タマムシ				新				新	新										3(+3)	
13		クズハキリバチ															継				1	注2
	合計	10種(+2)	2(-2)	0	1(+1)	1(+1)	1(+1)	5(+2)	3(+3)	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	-	-	

※「未」：2011年度に確認されたが、今年度調査では確認されていない種
 「新」：2011年度に確認されなかったが、今年度調査で新たに確認された種
 「継」：2011年度、今年度調査両方で確認された種

※グレーの網掛けは調査未実施地点

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、2011年度との差を（）で示した。

※「注1」：2011年度は重要種に該当するが、2022年度は重要種に該当しない種

「注2」：2011年度は重要種に該当しないが、2022年度は重要種に該当する種

※2011年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※2022年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

表 1.3(3) 重要種比較一覧

No.	項目	種名	調査地点														合計	備考																						
			① 日比谷公園	② 国会前庭	③ 日枝神社	④ 清水谷公園	⑤ ニューオータニホテル	⑥ 外濠の緑道	⑦ 靖国神社	⑧ 錦華公園	⑨ 神田児童公園	⑩ 神田川	⑪ 日本橋川	⑫ 東郷元帥記念公園	⑬ 牛込濠	⑭ 新見附濠			⑮ 弁慶濠	⑯ 大手町JABビル	⑰ 和泉公園	⑱ 練成公園																		
1	魚類	マルタ																			未																0(-1)			
2		ナマズ																																				0(-1)		
3		ミナミメダカ	継																																			2(+1)		
4		ヌマチチブ																																				1(+1)		
5		アベハゼ																																				1(+1)		
6		トウヨシノボリ類	継																																			3	注2	
7		ウキゴリ																																				1	注2	
	合計	5種	2	0	0	2(+2)	0	0	0	0	0	1(+1)	0(-1)	0	2	1(-1)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1(-1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-			
1	底生	オオタニシ																																				0(-1)		
2		テナガエビ	継																																				3(-1)	
3		スジエビ	継																																				5(+1)	
4		サワガニ																																					0(-1)	
5		モクズガニ																																					2(+1)	
6		ハグロトンボ																																					0(-1)	
7		ババアメンボ																																					0(-1)	
8		ハネナシアメンボ																																					0(-1)	
	合計	3種(-5)	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2(-4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2(-4)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-			
	全項目合計	58種(+12)	19(-2)	6(-2)	4(+1)	7(+2)	7(+5)	11(-2)	10(+5)	1(-1)	1(+1)	9(+8)	5(-1)	1(-1)	15(+1)	12(-6)	0	2(+2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-		

※「未」：2011年度に確認されたが、今年度調査では確認されていない種

「新」：2011年度に確認されなかったが、今年度調査で新たに確認された種

「継」：2011年度、今年度調査両方で確認された種

※グレーの網掛けは調査未実施地点

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、2011年度との差を（）で示した。

※「注1」：2011年度は重要種に該当するが、2022年度は重要種に該当しない種

「注2」：2011年度は重要種に該当しないが、2022年度は重要種に該当する種

※2011年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※2022年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

1.4. 調査地点ごとのまとめ

図 2.8 に項目別の確認種の総計から調査地点ごとの確認種の割合を示した。

以下に調査地点ごとのまとめと、図 2.9 に空間から見える特徴について示した。

【①日比谷公園】

大きな緑地で草地や樹林、水域と様々な環境を有し、また皇居近くに位置していることから、過年度から引き続き多くの重要種及び一般種が確認された。比較的どの項目においても、確認種数は多く、様々な生きものの重要な生息地の一つとなっていると考えられる。過年度調査と比べ重要種の種数は少なかったが、大きな環境の変化は見られないため、過年度偶発的に確認されたと考えられる種があると考えられる。

【②国会前庭】

調査地区の一部が工事中であったため、過年度と比べ重要種の種数が少なかったと考えられる。一方、調査地区内の池において、ツツイトモやホザキノフサモが新たに確認された。これは、皇居の濠から水鳥によって種子などが運ばれ、新たに生育したものと考えられる。

【③日枝神社】

調査地区の一部が工事中であるものの、環境に大きな変化はなく、過年度と比べ新たな重要種が確認されるなど、良好な環境が維持されていると考えられる。

【④清水谷公園】

過年度と比べ重要種の種数が少なかったが、オオアメンボやミナミメダカなどの水生生物が新たに確認されるなど、まとまった止水環境が水生生物の生息場として貴重な存在となっていると考えられる。

【⑤ホテルニューオータニ】

斜面林内に広く立ち入ったの調査を行うことができたため、アスカイノデやギンランなどの樹林性の種が新たに確認された。

【⑥外濠の緑道】

定期的な草刈りなどにより生育環境が引き続き維持されており、ヒトツバハギやヒメウラナミジャノメなどが過年度同様に確認された。ただし、一部ではソメイヨシノの衰弱や枯損木の伐採により林床環境が変化している所もある。

【⑦靖国神社】

大きな環境の変化はないものの、過年度より多くの重要種が確認されており、良好な樹林環境が維持されていると考えられる。

【⑧錦華公園】【⑨神田児童公園】【⑫東郷元帥記念公園】

いずれも規模の小さな公園であり、過年度から変わらず重要種はほとんど確認されなかった。しかし、鳥のような移動距離の広い種は、皇居から上野へ移動する際の経由地として利用している可能性も考えられ、皇居と上野を結ぶ生態系ネットワークの中継地点となりうる場所であり、このような小さな緑地も質を高めていく必要があると考えられる。

【⑩神田川】【⑪日本橋川】

両河川は主に三面護岸により植生はほぼないものの、主に水鳥が確認されており、両河川は規模の大きな水域であり、水鳥の生息を支える重要な環境となっている。しかし、日本橋川は首都高速道路の高架下を流れており、高速道路が移動や採餌を妨げている可能性があることから、神田川より鳥類の確認は少なかった。

【⑬新見附濠・牛込濠】【⑭弁慶濠】

樹林や草地に隣接した規模の大きな水域であり、草地性の種や水鳥が引き続き確認されている。過年度と比べ重要種の種数が少なかったが、大きな環境の変化は見られなかった。

【⑮大手町 JA ビル】【⑯和泉公園】【⑰練成公園】

今年度新たに追加となった地点である。いずれも規模の小さな緑地であることから、重要種はほとんど確認されなかった。錦華公園、神田児童公園と同様に、皇居と上野を結ぶ生態系ネットワークの中継地点となりうる場所であり、緑地の質を高めていく必要があると考えられる。

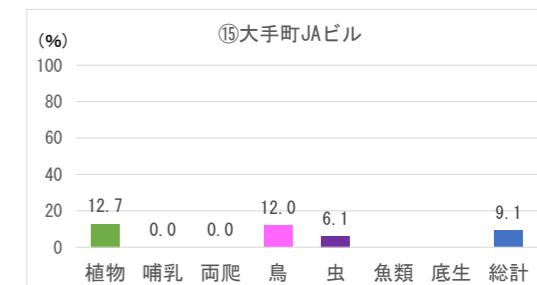
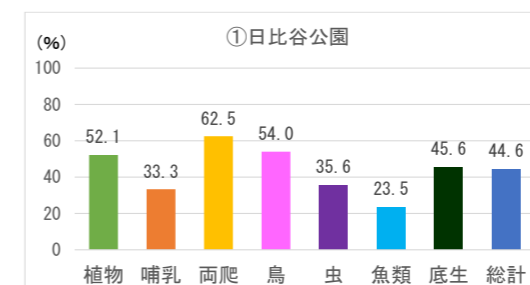
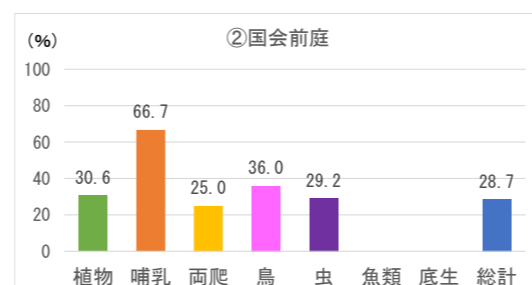
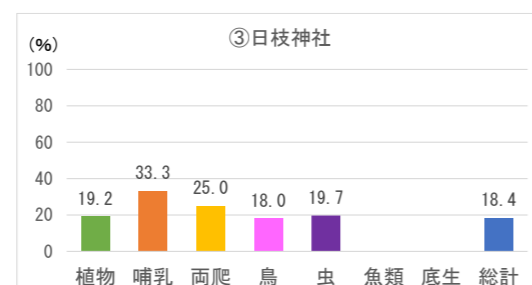
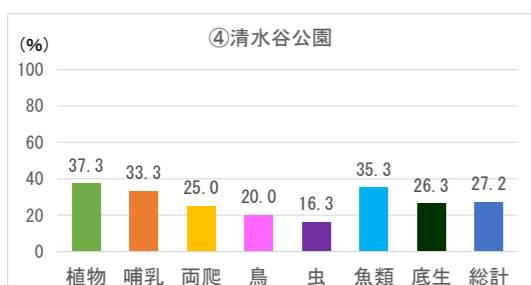
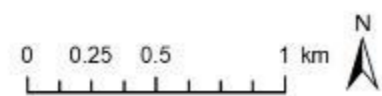
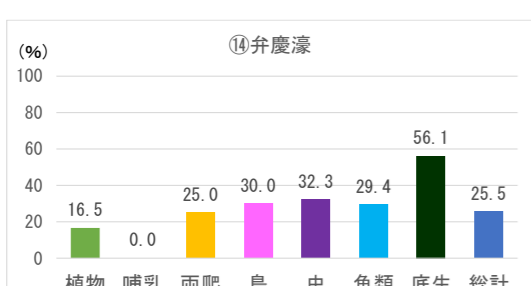
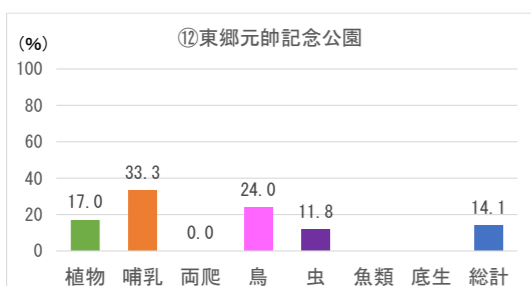
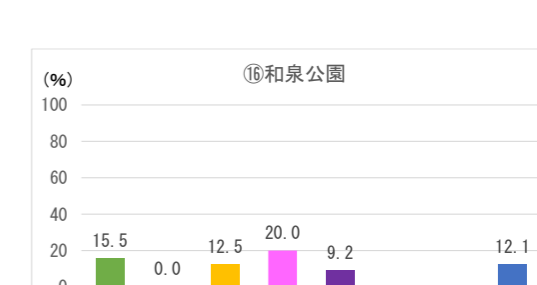
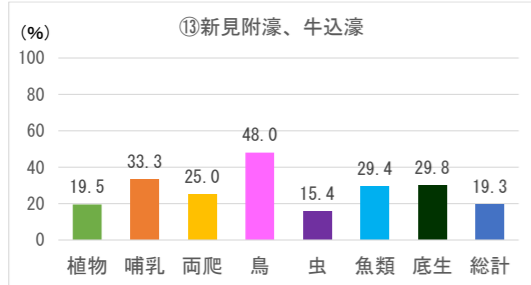
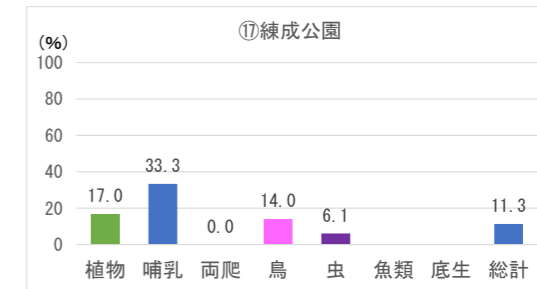
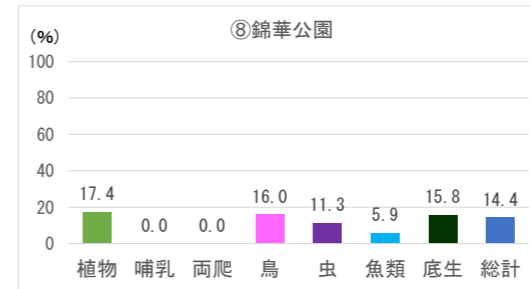
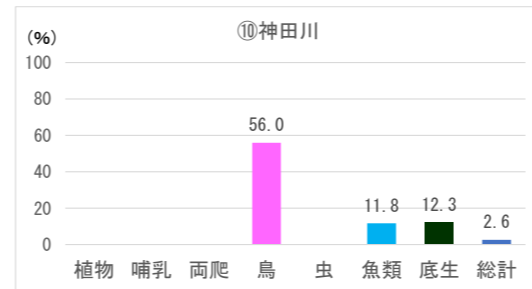
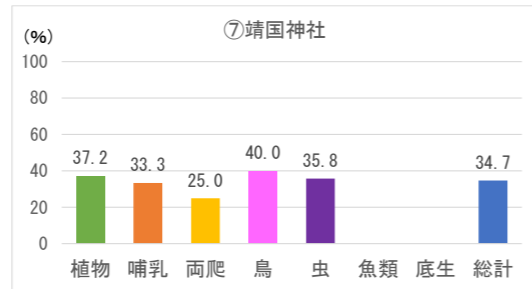
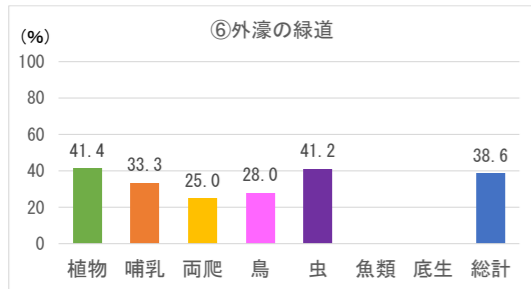


図 1.2 地点別確認種数割合



図 1.3 空間的に見た特徴

1.5. まとめ

a. 駆除、対策が必要と考えられる外来種

項目	種	今回（令和4年度）調査確認地点	前回（平成24年度）調査確認地点	概要	備考
植物	トウネズミモチ	全地点	全地点	生態系被害防止外来種 【対策案】 逸出も多い。広がらないようにできるだけ逸出した個体を抜き取ることが望ましい。植栽されている場合は、果実を食べた鳥類がフンを落とすことにより広範囲に趣旨散布されてしまうため、伐採することが望ましい。	
	シュロ	①日比谷公園、②国会前庭、③日枝神社、④清水谷公園、⑤ホテルニューオータニ、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社、⑧錦華公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠、⑯和泉公園（計11地点）	全地点	生態系被害防止外来種 【対策案】 逸出も多い。トウネズミモチと同様、広がらないようにできるだけ逸出した個体を抜き取り、大きくなった物は伐採も検討する必要がある。	
	ノハカタカラクサ	①日比谷公園、③日枝神社、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社、⑬新見附濠・牛込濠（計5地点）	①日比谷公園、③日枝神社、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社（計4地点）	生態系被害防止外来種 【想定される被害】 いずれの調査地区でも林床にマット状に広がっており、在来種を被圧してしまう可能性が考えられる。 【対策案】 除草や、現在生育している場所から分布を拡大させないことが必要。除草を行う際、不用意に引き抜くと葡萄茎や無性芽が残るため注意が必要。	文献1
	アメリカハナノキ	②国会前庭	②国会前庭	生態系被害防止外来種（定着予防外来種） 【対策案】 周囲への逸出は確認していないが、新たに植栽することは控えた方がよい種と考えられる。	
	ツルドクダミ	①日比谷公園、②国会前庭、③日枝神社、④清水谷公園、⑤ホテルニューオータニ、⑥外濠の緑道、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計8地点）	①日比谷公園、②国会前庭、③日枝神社、④清水谷公園、⑥外濠の緑道、⑭弁慶濠（計6地点）	生態系被害防止外来種 【対策案】 平成24年度調査より確認数・確認範囲が増加しており、見つけたら抜き取りを行うことが望ましい。	
	メリケンカルカヤ	①日比谷公園、②国会前庭、④清水谷公園、⑤ホテルニューオータニ、⑫東郷元帥記念公園、⑬新見附濠・牛込濠（計6地点）	②国会前庭、③清水谷公園（計2地点）	生態系被害防止外来種 【対策案】 風散布の種子で広がりやすいため、選択的な除草が必要である。ホテルニューオータニの屋上にも生育していた。屋上庭園などにも広がりやすいため、注意が必要である。	
	シマトネリコ	①日比谷公園、③日枝神社、④清水谷公園、⑤ホテルニューオータニ、⑦靖国神社、⑬新見附濠・牛込濠（計6地点）	なし	【想定される被害】 沖縄原産の国内外来種であり、近年植栽として多く利用されており、植え込みや道路際の隙間などに自生する事例がしばしば確認されている。今回調査地内において実生による分布拡大も確認された。トウネズミモチのように都市林などに侵入するほか、暖地性昆虫の分布拡大などに影響を与える恐れも考えられる。	文献2
	ノウゼンカズラ	①日比谷公園、④清水谷公園（計2地点）	③日枝神社、⑧錦華公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計4地点）	【想定される被害】 逸出個体を清水谷公園で確認した。庭に植栽されることも多いため、今後分布を広げる可能性がある。周囲に地下茎を伸ばして広がり、つるを伸ばして這い上がる。一度広がってしまうと駆除が難しい種である。	
	キンゴジカ	⑫東郷元帥記念公園	なし	【対策案】 結実も確認。分布が周囲の緑地に広がらないように駆除が必要である。	
	フシネキンエノコロ	②国会前庭	なし	【想定される被害】 国会前庭の北庭東側の法面草地で確認した。在来のコツブキンエノコロに似ており、選択的除草も識別できる人でないと難しいため、今後分布が拡大する可能性がある。	
爬虫類	ミシシippアカミミガメ	①日比谷公園、④清水谷公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計4地点）	①日比谷公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計3地点）	条件付き特定外来生物 【想定される被害】 水生植物や魚類、両生類、甲殻類等の生態系への被害が生じる。水生植物が減少することにより、底質の土の流出や水質汚濁等が生じ、景観や生態系に二次的影響が生じることも懸念されている。※令和5年6月1日に「条件付き特定外来生物」（通称）になる予定。 また、ミシシippアカミミガメを駆除する際、クサガメも捕獲できることから、作業効率的にも併せて駆除を行うと効率的である。	文献3

項目	種	今回（令和4年度）調査確認地点	前回（平成24年度）調査確認地点	概要	備考
昆虫	プラタナスグンバイ	①日比谷公園、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社（計3地点）	①日比谷公園、②国会前庭、⑤ホテルニューオータニ、⑥外濠の緑道（計4地点）	【想定される被害】 プラタナスグンバイはプラタナス、クスベニヒラカサミカメはクスノキを食草とする。全国的に害が発生しており、吸汁することにより葉の表面が茶色に脱色し、葉の裏は排泄物により汚れる。規制が著しいと樹幹全体につき美観が著しく損なわれる。枯死することはないが、樹勢低下の懸念がある。プラタナスに隣接した住宅のテラスに干した洗濯物や装飾店の商品に飛来し、付着するため不快害虫ともなっている。 【対策案】 定期的に被害状況を把握し、被害が著しい場合は、葉の散布による駆除を行うことが望ましい。葉の散布にあたっては、農薬の飛翔に十分注意する。	文献4
	クスベニヒラカサミカメ	②国会前庭、③日枝神社、⑫東郷元帥記念公園、⑭弁慶濠、⑰練成公園（計5地点）	なし		
底生動物	ヌマエビ科の Neocaridina 属	①日比谷公園、④清水谷公園、⑩神田川、⑪日本橋川（計4地点）	⑪日本橋川	【想定される被害】 ミナミヌマエビの名称で、外国産の同属種が飼育鑑賞目的で販売されており、日本各地に分布を広げている。本種の増加により、ヌカエビ等の在来種が生息環境等の競合による影響が懸念されている。駆除事例や対策はなく、近年ますます分布拡大の傾向にある。	
魚類	オオクチバス	なし	①日比谷公園、⑭弁慶濠	特定外来生物 【想定される被害】 弁慶濠ではオオクチバスが生息しているものと思われる。弁慶濠は釣り堀としての利用があり、調査中にもオオクチバスを対象としていると考えられる遊漁者がみられている。一方で、大手濠や桔梗濠等の内濠では環境省主体によるオオクチバス等外来生物の駆除が積極的に行われており、対応に矛盾を感じる。	

文献1：あいちの外来種移入種対策ハンドブック HP (<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/search>)

文献2：中野敬一. 2015. 都市有害生物管理 5(1)15-16pp. 緑化樹シマトネリコの生態影響について

文献3：環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室. 2019. アカミミガメ防除の手引き（令和3（2021）年8月改訂）

文献4：平成19年度病虫害発生予察特殊報第3号（福島県、平成19年10月）

すでに分布が拡大してしまった外来植物をすべて駆除することは困難であることから、今後植栽を行う際には、植栽時における在来種ガイドライン～生物多様性に配慮した植栽を目指して（東京都環境局、平成26）に従った植栽を行うことが望ましい。

b. 減少に対する対策が必要と考えられる種及び環境

項目	種・環境	今回（令和4年度）調査確認地点	前回（平成24年度）調査確認地点	概要	備考
植物	ミチヤナギ	①日比谷公園	①日比谷公園	【対策案】 前回調査時も確認個所数が少なかったが、かつて道端などに普通に生育していた種が少なくなっている。現在これらが生育している日比谷公園、外濠の緑道、新見附濠・牛込濠、弁慶濠の草地をこれまでどおり定期的に草刈りを行い、生態系被害防止外来種などが広がらないように維持管理していく必要がある。	
	スイバ	②国会前庭、⑥外濠の緑道、⑭弁慶濠（計3地点）	①日比谷公園、②国会前庭、⑥外濠の緑道、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計5地点）		
	ギンギシ	⑥外濠の緑道、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計3地点）	④清水谷公園、⑥外濠の緑道、⑬新見附濠・牛込濠（計3地点）		
	外濠の緑道	—	—	【対策案】 定期的な草刈りが行われているため、ワレモコウ、ツリガネニンジン、ノアザミ、ウマノスズクサ、ヒトツバハギなどの草地性の種が維持されている。引き続き定期的な草刈りを行い、生育地を守っていくべき。その他、外濠の緑道にはタチツボスミレ、アオイスミレなどの在来のスミレ類が残されている。ノハカタカラクサなどの外来種に被圧されないよう引き続き維持していく必要がある。	
爬虫類	ヒバカリ	⑤ホテルニューオータニ	なし	重要種 【対策案】 乾燥に比較的弱く、移動能力も低い。そのため、区内では隔離された状態となりやすい。ホテルニューオータニの環境は生息に適していることから現状維持が望ましい。周囲にいと考えられる個体との遺伝的交流や個体群の規模を大きくし、地域的な絶滅を阻止する目的とし、可能であれば周辺樹林（外濠の樹林、赤坂御用地等）と連結させた方がよいと考えられる。（道路が横断しており、ロードキルに対する対策も必要） また、連結させる樹林にヒバカリが生育できる環境創出が必要となる。腐食土壌を豊かにし、土壌の乾燥化を防ぐとともに餌資源（ミミズ類）を確保する。	文献5
昆虫	ウバタマムシ	⑥外濠の緑道	なし	重要種 【対策案】 松に依存していることから、皇居周辺のマツ林の維持が必要	
	タマムシ	③日枝神社、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社	なし	重要種 【対策案】 エノキやサクラなどの体系木に生育するため、街路樹や体系木の適正な維持管理が必要	
	クズハキリバチ	⑭弁慶濠	⑭弁慶濠		

文献5：吉川夏彦. 2019. 自然教育園に生息する両生類・爬虫類, 自然教育園報告 第51号:19 - 26, 2019

c. 千代田区らしい生きもの、皇居との関わりのある種

項目	種	概要	今回（令和4年度）調査確認地点	前回（平成24年度）調査確認地点	備考
植物	オドリコソウ	皇居の濠とそれに沿った緑地が残されているため生育している。	⑥外濠の緑道、⑭弁慶濠	⑥外濠の緑道、⑭弁慶濠	
	ホザキノフサモ	以前から弁慶濠での生育は確認されていたが、今回初めて国会前庭で確認された。鳥類によって運ばれたものと考えられ、皇居の濠が残っていることにより生育し続けられ、皇居を核としたネットワークができていると考えられる。	②国会前庭、⑭弁慶濠	⑭弁慶濠	
鳥類	モズ	近年減少傾向。モズが繁殖できる低木林や草地、耕作地といった環境が開発などにより減っていることが影響していると考えられており、保全対策として公園や耕作地の周辺に草本類が繁茂する場所が残るようにすることが望ましいとされている。	②国会前庭	①日比谷公園、②国会前庭、⑥外濠の緑道、⑭弁慶濠（計4地点）	
	イソヒヨドリ	近縁分布を広げている。イソヒヨドリは本来沿岸に生息する鳥でしたが、1980年代から内陸に進出するようになり、近年都市部で繁殖するようになった分布の拡大が著しい鳥。ただ、近年分布を広げた要因ははっきりしていない。	⑩神田川	なし	
哺乳	皇居内のタヌキ	皇居内には以前からタヌキの生息が知られていて、上皇も皇居内のタヌキの季節的な食性に関する論文を書いている。今年度調査では未確認だが、現在もいると考えられる。	なし	③日枝神社、⑭弁慶濠	文献6
	都心部に多いクマネズミ	立体的な移動も得意でビルにも生息する。（ドブネズミはあまり立体的な移動をせず、水辺周辺に見られる。水場の多い外濠などでは生育しているのではないかと思われる。）	⑰練成公園	なし	
昆虫	ムスジイトトンボ	千代田区らしい生きもので外濠・内濠に生育している。	①日比谷公園、②国会前庭、⑭弁慶濠	②国会前庭	
	コサナエ	皇居と関係のある種である。確かな生息地は皇居のみであり、日比谷公園で確認された個体は皇居から飛来したものである。	①日比谷公園	なし	

文献6：Akihito, Takako Sako, Makito Teduka and Shin-ichiro Kawada. 2019. Long-term Trends in Food Habits of the Raccoon Dog, *Nyctereutes viverrinus*, in the Imperial Palace, Tokyo Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 42(3), pp. 143-161,

August 22, 2016